

2017年度 長期滞在型・ロングステイ観光学会 分科会について

1. 長期滞在型観光のモデル実現条件調査とモデル研究分科会

～長期滞在インフラを中心にして

代表申請者 旭岡叡峻 ((株) 社会インフラ研究センター)

目的：「長期滞在インフラ構築分科会」（2016年度分科会）の内容も一部持続して、具体的な地域を選定して、長期滞在型観光モデルを設計し、モデルの普及を目指して、調査、研究、モデルの設計等を行う。関係官庁、地方自治体、関係大学、関係企業、財団、他学会等との連携を含む。

成果：①長期滞在型観光形成条件の調査結果と課題の抽出、②長期滞在型観光モデルの設計案の提示、③モデルの普及と課題の今後の解決方法等。

発表方法：①学会第2回年次大会報告、シンポジウム開催報告等。

※本分科会は他学会員のオブザーバーとしての参加を受け入れます。参加を希望される方は代表申請者（asahioka@sircjapan.com）までお申し出ください。

2. 訪日中国人のロングステイ需要研究分科会

代表申請者 有馬貴之（帝京大学経済学部観光経営学科）

ロングステイに関する調査は、訪日外国人の長期滞在という側面からも行われるべきである。特に、近年急増するアジア系観光客が、ホームステイなどの仕組みを利用して、日本の長期滞在を行うようになってきている。そこで本分科会では、中国人の訪日観光客に焦点を当て、彼等の日本でのロングステイ需要に関する調査を行う。

ただし、中国人訪日観光客といつても、その指向性は多様である。そこで、本年度は中国内の出身地などを考慮した需要調査を行う予定である。具体的には成田空港や羽田空港において中国人向けのアンケート調査を行い、得られたデータから中国人観光客のどのような層にどのようなロングステイの需要があるのかを明らかにする。その成果は本学会の学術大会等で発表し、公表する。

3. 海外（東南アジア圏）でのアンチエイジング医療における問題に関する研究会

代表申請者 倉田大輔（池袋さくらクリニック）

・テーマ：海外でのアンチエイジング医療の受療における、問題点と注意点を研究する。

・目的：海外（東南アジア）、特に駐在員や長期滞在者が多い土地で、現地医療機関を受診し、気軽さや低価格からアンチエイジング医療を受ける人（駐在員家族など）が多い。一方で、肌の色・質などが異なる上、医療者とのコミュニケーション不足もあり、「結果に満足がいかない（肌トラブルの発生）」事例が起きている。そこで現地日本人会や各種組織と協力し、調査を行い、長期滞在者が、現地でより安全なアンチエイジング医療を受けられるための注意喚起や啓発を行うことを目的にする。

・予想される発表成果：具体的な事例や現地の医療機関への調査を行うことで、実態を調査する。

・成果の発表方法：学会発表や記事・執筆など各種媒体